

## 平成28年2月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時 平成28年2月16日(火) 午後1時30分

場 所 市庁本館3階 議会第三委員会室

教育委員職氏名	教育委員長	大 庭	文 武
	教育委員長職務代行者	武 輪	節 子
	教育委員	築 瀬	眞知雄
	教育委員	油 川	育 子
	教育長	伊 藤	博 章

事務局員職氏名	教育部長	佐 藤	浩 志
	教育部次長兼教育総務課長	野 田	祐 子
	図書館長	藤 田	俊 雄
	学校教育課長	小笠原	徹
	教育指導課長	木 村	一 夫
	社会教育課長	田 中	勉
	是川縄文館副館長	清 川	定 吉
	総合教育センター所長	原	寿
	博物館副館長	古 里	淳
	教育総務課参事	尾 崎	雅 祥
	学校教育課参事	茨 島	隆
	是川縄文館参事	宇 部	則 保
	是川縄文館参事	村 木	淳
	東地区給食センター所長	中 里	親 弘
	北地区給食センター所長	外 館	一 良
	西地区給食センター所長	清 川	彦 一

## 開 会

(大庭教育委員長)

定刻となりましたので、平成28年2月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、油川委員さんを指定します。

それでは教育長から、主な会議・行事等について、説明をお願いします。

## 主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

### 議案第10号 八戸市通学区域審議会委員の委嘱について

(小笠原学校教育課長 資料に基づき説明)

### 議案第11号 八戸市通学区域審議会特別委員の委嘱について

(小笠原学校教育課長 資料に基づき説明)

### 議案第12号 八戸市南郷スクールバス運営規則の一部を改正する規則の制定について

(小笠原学校教育課長 資料に基づき説明)

(築瀬教育委員)

このことについて意見ということではなく、要望ということでは述べていただきたいと思います。市野沢小学校、中野小学校、鳩田小学校の統合による南郷小学校の開校が決まっているわけです。昨年度の定例会でも述べたように、この地域においてはこれまで地域住民とか保護者、市教委関係者が長い時間をかけてさまざまな形で将来の姿を構想してきたことによって統合、新設、開校ということになったわけです。そのことについては改めてこの場で敬意を表したいと思います。ただ昨年度の定例会でも述べましたけれども、統合という形になったわけで、その結論については次の田代小中学校も同じなのですが、苦渋の決断という言葉が使われているわけで、その言葉の重さは開校しても忘れないようにしたいと思っているところです。つまり以前に提示された統合にあたっての要望事項というものがありました。その要望事項というものをいつでも一つ一つ確認しながら、進めていくということが南郷小学校が開校してからも必要ではないかと思っています。そういう意味では引き続き市教委としても最大限の努力をしてもらいたいし、していきたいものだと思います。その要望事項の1つであるこのスクールバスの運行ということですので、この運行にあたっては既に増田小中学校の廃校、統合に伴う増田地区のスクールバスが運行されているわけです。その増田地区の運行の実績、もし課題などが今まであったらそういうことも含めて今回新たに中野地区、鳩田地区のスクールバスが運行されるわけなので、その利便性を配慮すると同時に今回はスクールバスの運行範囲が大分広がるということと、幹線道路から少し奥に入った子どもたちも多くなるということから、登下校時の安心安全を確保するということについては、常に地域と連携をとって市

教委事務局としても十分に配慮していく必要があると思っています。要望方々述べさせていただきました。

(大庭教育委員会委員長)

はい。築瀬委員からもありましたように、スクールバスの運行ということに至ったわけです。これは良かったと思います。今後も今ありましたように、当地域と連携をとりながら、改善すべき点があれば改善しながらやっていただければと思います。

### 議案第 13 号 八戸市通学区区域審議会に対する諮問について

(小笠原学校教育課長 資料に基づき説明)

(築瀬教育委員)

このことについても意見ではなく、先ほどと同じようなことを一言述べたいと思います。来年3月末をもって閉校することが決まったと新聞報道にもありましたが、昔は階上村、階上町、南郷村との組合立、南郷村が八戸市になってからは階上と八戸市の組合立という特異な形態の学校であるとともに、非常に地域の伝統芸能も含めた意味で歴史のある地区であります。やはり南郷地区と同じように地域住民にとっては苦渋の決断だったと思います。新聞紙上でも教育長が苦渋の決断という言葉を使っていましたけれども、やはりその言葉の重み、先ほどと同じように忘れないようにしながらいきたいと思っています。この場で田代地区の住民の心中をお察し申し上げたいと思っています。また地域住民はもちろんですが、南郷においても同じでしたけれども、子どもたちというものは素直で明るいので、あまり声に悲しいことをあまり出さず未来に向かう、希望的なことを言います。そのようにかわいいのですが、やはり子どもたちにとっては非常に大きなショックがあると思います。母校がなくなるということです。ですから先ほどの南郷地区と同じように、島守小学校、中学校へのスクールバスの運行とともに、やはり地域の中心であった学校の校舎とか体育館とか、とてもきれいに磨かれておりますので、そういった気持ちを大事にして有効活用等を進めるとか、要望に十分配慮してほしいと思っています。最大限の配慮をしていただきたいと思います。以上です。

(大庭教育委員会委員長)

私自身も卒業したというか、育った小学校が現在廃校になっております。相内小学校ですけれども、その前を通るたびにやはり小学校時代に思いを馳せるものがあります。やはりその地域の方々の思いを大切にしていきたいものだと思います。

### 自動車破損事故報告及び損害賠償額の決定について

(野田次長兼教育総務課長 資料に基づき説明)

(武輪教育委員会委員長職務代行者)

今説明をお聞きいたしまして、少し納得した部分もありますが、損害賠償額が非常に高額だったので、どのような事故だったのだろうとこの資料を拝見して思っておりました。後退していたのであれですが、人的被害というか、運転されている方に怪我がなかったことが何よりのあれですけども、かなりの額ということは相当駐車場内であつても衝撃が強かったのではないかと思います。今後こういった事故が本当に起きないように、十分注意していただきたいと思います。この公益社団法人の共済会というものは、全ての市の職員の方々に対して、いわゆる職務時間内に起きたものに関してはこのようなものが下りるようになっているのでしょうか。

(野田次長兼教育総務課長)

全国市有物件災害共済会は市有物件に係るものですから、公用車ですとか、あるいは建物等でそういった損害が起きた際の補償をするという形になってございます。今回の場合、公用車により相手方に対する被害を与えたということになりますので、全てが補償対象となります。後退といたしましても、ただ少しバックしたということではなくて、駐車場から出庫するために方向転換をしようとしたために、車がこういってこう出ようとした際に、ここに停まっている車にぶつかった。こう方向転換する際にぶつかったということで、斜めにぶつかったという状態でございます。少し被害額が大きくなったかと思っております。以上でございます。

(武輪教育委員会委員長職務代行者)

私も大変運転が苦手なのであれですが、お互いに十分注意をして、このようなことがないようにしていきたいと思っております。

(大庭教育委員会委員長)

この文章を見たときに、誰がどういう状況で起きたものなのかがわからなかったのです。今の説明で公用車を運転しているということでした。最初に見たときは当該校の学校関係者と捉えたものですから、その辺はこういう文章の場合、もう少し詳しく書けないものですかね。そうするとその状況がわかりやすかったと思えました。

(油川教育委員)

いま今後安全運転に努めるというお話でありました。もし少し参考になればということで、再発防止という観点からお話をさせていただきます。以前リスクコンサルティングの方のお話を聞いたことを基にお話申し上げます。車を所有している事業所というものはたくさんありまして、その中で事故を頻繁に起こす事業所と、ほとんど事故を起こさない事業所というものがあります。その差は一体何であるのかということはこのコンサルティングの方が追及したところ、多く事故を起こしている事業所と、それからほとんど起こさない事業所に行って、事故を起こした際の対応の仕方について質問したところ、事故を頻繁に起こしているほうの事業所は、報告書と罰則があったということでした。一方ほとんど事故を起こさない事業所は、報告書の内容が原因を追究するものということで、今後起こさないために今この事故を起こした原因は何だったかということをとことん奥まで下げていって、その本当の原因になっているところを今後解消していきましようという内容です。そのときの精神状態というものも含めて、具体的な防止策とい

うものがきちんと記録されてあって、そしてそれを事業所内で回覧して共通理解を図るというものだったようです。こういう事故を起こしたので、こういうことに気を付けていきたいと思います、その根本のところの下がっていくということも再発防止になると思います。十分にそういうことはおやりになったかと思えますけれども、参考のために申し上げます。以上です。

## 平成 27 年度学校教育実践功労表彰について

(原総合教育センター所長兼子ども支援センター所長 資料に基づき説明)

(武輪教育委員会委員長職務代行者)

質問はございませんが、私の感想を少し述べさせていただきます。いま原所長からのご説明もありましたとおり、今回もこの3団体とも大変素晴らしいさまざまな活動に取り組まれて、成果を上げられているということで、私も大変嬉しく思っております。特にこの中小グリーンの活動は昨年にも出たと思いますが、地域密着型の報告会の中でも発表がありまして、その中でもお聞きしました。鳩田小学校では学校訪問などでも子どもえんぶりについてお聞きしました。また種差小学校におかれましても、皆さんもご存知と思いますが、今年度はさまざまな形で表彰されている学校であります。特にごみゼロ登校とあって、登校する際に子どもたちがごみを拾いながら登校することをされています。私の経験からいくと、登校するときは時間までに間に合うようにただ歩いて行くという形で、ごみを拾うというところまでの余裕は全くなかったと思います。ごみを拾いながら登校する、それだけまず時間的にも、気持ち的にも余裕を持って登校できる子どもたちはすごく素晴らしいと感じています。その環境美化活動を25年間継続して、今お話しした以外にも海岸清掃やリサイクル活動も含めてですが、そういう活動が第16回環境美化教育優良校表彰事業ということで、環境大臣賞というものをとったという報告もあります。さらには地域の方々と一緒に種差の新しいお菓子を作ろうということで、お菓子自体からパッケージまで、子どもの考え、アイデアを生かした形で作るということで、そういう課程の時点でのお話を伺っていただきましたので、今回とても素敵なお菓子ができ上がって、パッケージも子どもたちの案が十分に生かされたパッケージで販売されたということを知って、本当に嬉しく思っております。本当にこの地域と学校とが一緒になって子どもたちを育む、そういう机の上での教科の勉強以外の部分で、いろんな経験がこれから子どもたちの成長する過程の中ですごく良いことになっているのではないかと思います。とても素晴らしい、それぞれの活動だと思っております。市内の小中学校ではこちらの3校以外にもたくさん素晴らしい取り組みをされている学校が多いと思いますので、どんどんこの教育実践功労表彰のところに応募していただいて、皆さんにいろんな活動を報告し、そしてそれが認められて表彰されるとなればいいと思います。そして子どもたち、先生のさらなる励みになっていければと思います。今後もこの表彰については私も良い取り組みがどんどん表彰されることを祈っております。以上です。

(大庭教育委員会委員長)

各小学校の取り組みの状況について具体的な説明をしていただきながら、今後よりこのような活動が活発になればいいと思いました。私もこの表彰式について新聞紙上でも紹介されておりましたので、地域の方あるいは市民の方にも知っていただく良い機会になると思っております。今後もこの活動が一層盛ん

になってくれれば良いと思います。

### 「第19回図書館を使った調べる学習コンクール」(全国) 優良賞、奨励賞入賞について

(藤田図書館長 資料に基づき説明)

(築瀬教育委員)

昨年度もこの場で、昨年度はお兄さんのほうの元君の南部藩に関わる観光庁長官賞ということで、大変喜ばしいということをお話しました。今回は弟さんということで良かったと思っています。この作品では、去年は元君の調べ学習の素晴らしさについてお話したのですが、今回この弟さんもきっかけというものがやはり良いなと思いました。お兄さんから刺激を受けて、小学校に入ったらもうやろうと決めていたということが、非常に良い刺激になっているということ。あとは市の図書館で海の水はどうしてしょっぱいという本を借りて、そこから研究をスタートしたというところが、図書館を使って調べ学習そのものであると思って、大変嬉しくその点で思いました。あとは大変詳しく調べていて、沖縄からむつまでずっと歩いて、各地方の海水を集めたようです。詳細な実験をしていたようです。そのこともとても素晴らしいと思ったのですが、今話したことと学校の図書館を利用したということもちゃんとそこで触れられています。嬉しかったことは、その学校の図書館で調べるときに、1年生なのでよくわからないというときに、その学校の5年生の子どもと一緒に探してくれて嬉しかったということなのですね。やはり小学校の研究というか、特に低学年のそういう研究というものはそういった嬉しさとか、温かさに触れて伸びるものだ、この調べ学習の結果を見て感じたのです。単に本に触れて調べることだけではなくて人との触れ合い。このあとずっと触れ合いが続くのです。前の南部藩もそうですけれども、さまざまな人と触れ合った中で、その調べ学習が深まっていくということです。各学校における調べ学習の課題というものが指摘されているわけなのですが、やはり本とか知識だけではなくて、人との触れ合いがその研究を深める意欲に深くつながるということを改めてここから感じさせていただいて、とても嬉しかったのです。そのことをお話したいと思いました。

もう一つはしょっぱいということが研究テーマなのですね。最後の結論は、そのしょっぱさについてまとめているのですが、その中で私がもう一つ嬉しかったのは、おいしさも調べたそうなのです。八戸の海水が一番おいしかったそうです。それは科学的にどうかはわかりません。でも私はそれが嬉しかったのです。何かというと八戸に誇りを持っている、それが感情になったのかと思って、とても嬉しく思いました。そのことを伝えたかったということで話をしました。

最後は一つ、余計なことかもしれませんが、私が行ったときは全国の入賞について、あそこに掲示がなかったように思うのです。何かやりましたか、すいません。

(藤田図書館長)

言い忘れていましたけれども、1月30日の土曜日から2月11日の木曜日まで、第5回八戸市立図書館を使った調べる学習コンクールの入賞作品展を図書館1階のカウンター前で行いました。確かにいま築瀬委員からご指摘あったように、その2人の作品が全国大会でこういう結果を受賞したということについてはお知らせしていなかったもので、今後やっていきたいと思っています。

(築瀬教育委員)

はい、ありがとうございます。多分1月30日以前に結果はわかっていたと思うので、ああいうところに大きく全国何々とやれば、図書館に行った人はあそこを素通りしがちなのだけれども、ぱっと大きなパネルなどがあれば止まるのではないかと思ったので、感想として述べさせていただきました。

(油川教育委員)

地域コンクールが第5回目を迎えるようなのですけれども、応募数というものは年々増えているかと思うのですが、その辺りはいかがですか。

(藤田図書館長)

11月の定例会でもご報告いたしました。今年度は52作品の応募がありました。実は中学校が残念ながら1点だけの応募だったとお知らせいたしました。そういう意味で11月定例会の中でも中学生への働きかけについて考えてくださいというご指摘があったと思います。昨年は旭ヶ丘小学校で先生が熱心に子どもたちに勧めてくださったということがあって、一挙に応募作品数が増えました。ただそこで少し残念だったのは学校図書館、あるいは公立の図書館を使って調べる学習コンクールということでしたので、どういふ図書を使ってどういふことを調べたのかということの明示がないところがあって、多くの作品を出品していただいたのだけれども、残念ながら入賞に2作品しか入らなかったということがありました。そういう点についても今後学校のほうにもちゃんと説明してまいりたいと思います。以上です。

(油川教育委員)

はい、ありがとうございます。この地域コンクールというものをさらに大切に活性化していただければと思います。新しい学習指導要領の中には主体的な学習ということと、言語表現力ということを重視していると思います。そういった視点からもこのコンクールに参加するということは、それらにつながられるのではないかと。とても良い機会を提供してくれることと思いますので、これまでも励んでくださっていると思いますけれども、たくさんの方に応募していただけるような工夫などもしてくださっていると思いますが、いいのかなと思います。

また今の話にもありましたけれども、このコンクールにチャレンジした効果というものを明らかにすることと、もう一つは今後のよりよい図書の運営ということにつなげるために、応募してくださった方、それから受賞者の方にアンケートなどをとってみたいかがかかと思っています。例えば今の話でもありましたけれども、どこの図書館を使ったか、市立図書館とか南郷の図書館とか、図書情報センター、もしくは学校図書であったりなど。それから図書館司書についてはどうであったか。それから図書を利用したときに困ったことなどはありませんでしたかなどの情報を収集することによって、またより良い図書運営にもつながるのかと思いました。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

(大庭教育委員会委員長)

一つ確認です。先ほど館長の説明の中にこのコンクールに関しては、例えば自分の作品の中に出展に際しての図書、そのようなものがちゃんと明記されていないといけないという要項もあるわけですか。

(藤田図書館長)

そうですね。

(大庭教育委員会委員長)

そういう部分も条件になるのですね。そうするとその辺の書き方の指導といいますか、その辺も必要になってくるのかもしれませんが。割とその辺の出展などについては小学生や中学生は意識しない部分かもわかりません。図書のこのようなところから深めていったのだという書き方みたいなどの指導も必要なのかと思って伺っていました。私もこのコンクールの入賞はもちろん嬉しいですけども、やはりもっと浸透して行ってほしいという思いがあります。やはりタイトルの中にあるクエスチョンマークですね。そこからいろいろ調べて行って、自分なりの課題を見つけながら、解決までいかなくてもそれに向かっていく。そういうなぜ力をもっていくという姿勢を育てるためには非常に大事なことかと思えます。そういう意味でも小学校だけではなくて、やはり中学生がもう少しここに加わってくれば、もう少し深まったものも出てくるのか。中学生のほうがいろんな発想が出てくるのではないかという思いがありますので、是非この活動が広まっていけばいいと思っております。

## 閉 会

(大庭教育委員長)

これをもちまして平成28年2月教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後2時27分閉会)